

## 抄 録

## 第16回山口県院内感染防止研究会

日 時：平成20年7月19日（土）15:00～18:00

場 所：山口グランドホテル2F

「鳳凰・鶴の間」

代表世話人：神谷 晃・花田千鶴美

共 催：山口県院内感染防止研究会

山口県看護協会

山口県病院薬剤師会

## 1. 速乾性擦り込み式手指消毒剤の使用状況と今後の課題

山口県厚生連 長門総合病院

リンクナース委員会

○飯田良子, 坂野暢子, 山本貞美, 増田美奈子,  
藤永 聡, 長野恵子

A病院では手洗い設備が充実していないため手指衛生の手段として速乾性擦り込み式手指消毒剤の使用を推奨し、リンクナース活動の一環として手指消毒の必要性・手技方法の講習を行ってきた。しかし、実践の場での遵守状況の実態は把握されていなかった。そこで、院内感染マニュアルのオーデットを使用しリンクナースによる直接観察法とアンケート調査を行った。この結果より、オーデットに沿った手指衛生が遵守出来ていなかった。院内ネットワークには、オーデットを掲示していたが、全職員に行き届いていなかった。

結論：1. オーデットに沿った手指衛生が遵守出来ていなかった。2. 全職員に使用方法が浸透してなかった。3. 手荒れ予防対策を行ってなかった。この結果をふまえ、今後はオーデットの周知徹底を行い、感染防止活動に活かしていきたい。

## 2. 全職員による手洗いキャンペーンの試み

山口大学医学部附属病院 感染制御室

○有好浩一, 小坂まり子, 日野田裕治

手指衛生は標準予防策において骨格をなす項目であり、感染対策上その徹底は重要な課題である。我々は教育・啓蒙活動の一環として全職員を対象と

する「手洗いキャンペーン」を実施した。各科・各部署に配置されている感染対策担当医師と感染対策担当看護師を教育担当兼責任者とし、手洗い法の指導と手洗いチェッカー（蛍光ローションと専用蛍光用スタンド）による手指洗い残しの確認を行った。また同時にアンケートを行い、手指衛生に対する意識と実態の調査を行った。6月末の時点で「手洗いキャンペーン」は実施途中であるが、600名以上の参加者を得て、多数の職員に対し実践的な教育の機会を提供可能であった。またアンケートの結果から、手指衛生は不十分であるにも拘わらず、そのことの自覚は不足している事が明らかとなった。このたびのキャンペーンを手指衛生徹底につながる意識改革の契機とするために、事後対策の立案に努める。

## 3. 採血・血管確保時の手袋着用率向上の取り組み

山口大学医学部附属病院 看護部感染対策委員会

○小坂まり子, 山下美由紀, 齊藤恵子,

三谷恵子, 林 久美, 横山恵子, 川村和美,

西田和美, 福島正子, 猪上妙子

【はじめに】職業感染対策の取り組みとして、平成18年度に看護師長会グループワークの「QC活動を通じた採血時手袋着用率の改善」を報告した。平成19年度は、看護部感染対策委員会の活動として、すべての部署での採血・血管確保時の手袋着用率の向上に取り組んだので報告する。

【対象】看護師517名。

【期間】平成19年5月～20年2月。

【方法】①部署ごとの採血・血管確保時の手袋着用率を知るために、全看護職員にアンケートを実施した。②部署ごとに採血・血管確保時の手袋着用率の達成目標を決め、取り組んだ。③目標設定の3ヵ月後に再度アンケートによる目標の達成度を調査した。

【結果・考察】目標を達成できたのは採血時が2部署、血管確保時が3部署であった。目標を100%着用とした部署が多く、達成できた部署は少なかったが、いずれの部署も着用率の向上がみられた。

#### 4. 「在宅介護の感染防止」マニュアルの作成について

山口県病院薬剤師会・院内感染防止小委員会

○白野陽正, 松田美智子, 植野孝子, 長野恵子,  
山崎博史, 河口忠夫, 尼崎正路, 林 幹也,  
松尾義哉, 頼岡克弘, 佐伯久美子, 平田紀子,  
尾家重治, 神谷 晃

【はじめに】在宅介護の重要性が高まる中, 在宅における感染防止に関する著作は少なく, 特に実践的に使用できるマニュアルなどはほとんど見当たらない。今回, 山口県病院薬剤師会・院内感染防止小委員会では, 在宅介護向けの感染防止マニュアルを作成したので報告する。

【方法】マニュアルの対象者は, 在宅訪問介護職員と訪問看護職員とした。作成方針は, 消毒薬や感染予防における薬の使い方など薬に特化した内容で作成する。介護の程度に応じての対応を具体的に示す。消毒法・管理法は, これなら自分でもできる方法を提示する。また, 作成するにあたり, 事前にケアマネージャーや訪問看護ステーションの看護師に現場での問題点等を聞いた。

【結果】構成は, 在宅における感染防止対策の基本的考え方, 感染症を持つ利用者とその家族への対応, 在宅医療に用いる器材などの衛生管理等である。感染症を持つ利用者とその家族への対応は, 感染症別に感染症の病原体, 感染経路, 感染防止のポイント, 消毒法, 治療薬, ケアおよび消毒における感染防止の注意点となっている。在宅医療に用いる器材などの衛生管理は, 感染防止のポイント, 使用する器材の消毒方法などとなっている。掲載した感染症は, MRSA感染症, B型・C型肝炎, ノロウイルス感染症などである。また, 掲載した器材は, ネプライザー, 気管内吸引チューブ, 自己導尿カテーテルなどである。

【考察】感染防止に対する薬剤師の役割は, 医療機関内の感染防止にとどまらず, 在宅介護の感染防止に対しても関与していく必要があると考える。このマニュアルを活用することにより, 日々の疑問が少しでも解決され, 在宅介護の現場で感染防止の良き手助けとなることを願っている。

#### 5. 中心静脈ラインの三方活栓と閉鎖式注入デバイスの微生物汚染

周南市立新南陽市民病院 薬剤部,

山口大学医学部附属病院 薬剤部<sup>1)</sup>

○頼岡克弘, 尾家重治<sup>1)</sup>, 神谷 晃<sup>1)</sup>

集中治療室において72時間使用された中心静脈輸液ラインの三方活栓内腔と同ラインの三方活栓部分に取り付けた閉鎖式注入デバイス内腔 (シユアプラグ<sup>®</sup>: テルモ株式会社) の微生物汚染について比較調査した。三方活栓では調べた148検体中17検体 (11.5%) に汚染が認められ, そのおもな汚染菌種は *Staphylococcus epidermidis*, *Staphylococcus capitis* などのコアグラゼ陰性ブドウ球菌および *Pseudomonas aeruginosa* (緑膿菌) であった。一方, 閉鎖式注入デバイスでは調べた152検体すべてにおいて汚染は認められなかった ( $p=0.0005$ )。中心静脈ラインの感染防止の観点から, 閉鎖式注入デバイス (システム) は有用と考えられる。

#### 6. 病院職員および看護学生のウイルス抗体 (麻疹, 風疹, 水痘, おたふくかぜ) 保有状況

山口赤十字病院 感染対策チーム, 健康管理室<sup>1)</sup>,  
山口県鴻城高等学校 衛生看護科<sup>2)</sup>

○門屋 亮, 大淵典子, 國近尚美, 尼崎正路,  
佐々木幸子, 村田恵子, 神崎多紀子,  
岩本孝子, 伊藤紀子<sup>1)</sup>, 田中則子<sup>2)</sup>,  
大谷靖枝<sup>2)</sup>, 徳永淳子<sup>2)</sup>, 伊藤睦恵<sup>2)</sup>

2005-8年度の当院新規採用者計180名の抗体保有率は麻疹99%, 風疹96%, おたふくかぜ97%, 水痘99%であった。陰性者および抗体価の低い者 (EIA ± または風疹HI 16倍以下・水痘IAHA 2倍以下) にはワクチンを勧めた。その率は麻疹4%, 風疹9%, おたふくかぜ18%, 水痘1%であった。2006-7年度, 山口県鴻城高校看護科の生徒の抗体検査を同様に行ない, 実習前にワクチンにより対策した。受検者80名の抗体保有率は麻疹95%, 風疹79%, おたふくかぜ91%, 水痘99%, ワクチン推奨者の率は麻疹11%, 風疹46%, おたふくかぜ22%, 水痘2%であった。当院職員では高校生に比し麻疹, 風疹の抗体陰性および低抗体価の者が少ない。それは実習・就職などに際し予防接種を受けた者が多いためと思われるが, 本年より5年間実施される麻疹風疹混合生ワクチン (MR) 3, 4期を含め今後も対策が必要である。一般検診として当院で検査を受けた大学生の結果も併せ考察する。